



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2019年 8月 7日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	義村 弘仁

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
熊本	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
飼育下のユキヒョウにおける毛の排出と植物の関係	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
2019年 7月 31日 ~ 2019年 8月 7日 ( 8日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
熊本市動植物園	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p>	
<p>今回の調査では熊本市動植物園で飼育管理中のユキヒョウ雌(スピカ)に対して、1週間の行動観察および糞採取、放飼場の植生調査を行なった。猛暑の影響で放飼場と寝室の扉が常時解放されており、寝室内にいたことが多かったが、屋外放飼場に出てきている時には植物を食べる様子を観察することができた。また、植物に対する選好性を調べるため、今回から放飼場の簡易的な植生調査を始めた。熊本市動植物園のユキヒョウ放飼場には4種(未同定、現存量がごくわずかなものは除く)の植物が自生していたが、調査期間中にユキヒョウが食べていたのは1種のみであった。今後植物の同定および他園館との比較を行なっていく予定である。また、糞採取に関しては行動観察終了後もさらに1週間行なっていたが、計2週間サンプリングを行う。糞サンプルについては今まで同様に野生動物研究センターで分析し、毛と植物の量を調査する予定である。また、本個体は昨年度、大牟田市動物園で飼育管理されていた期間にもサンプリングを行なっていたため、移動による変化の有無や食べている植物の変化等についてもデータを得られると期待される。</p>	 <p>図1：対象個体(スピカ)</p>  <p>図2：放飼場の草を食べる対象個体</p>
<b>6. その他</b> (特記事項など)	